

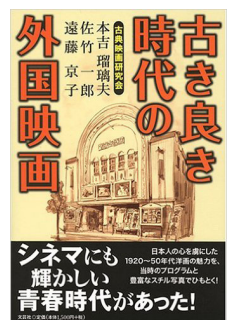
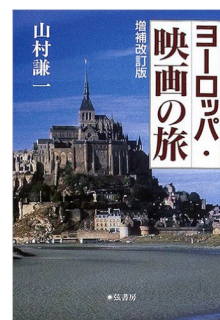
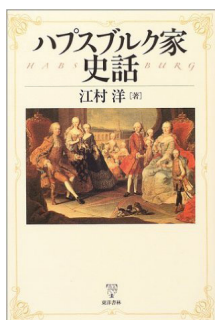
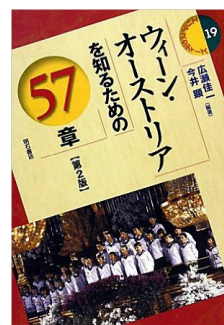
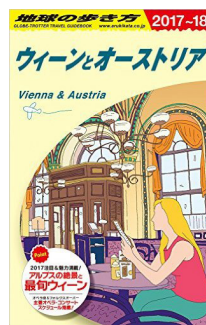
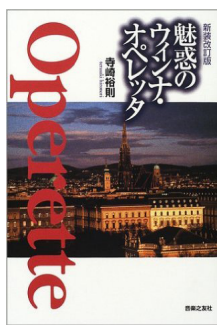
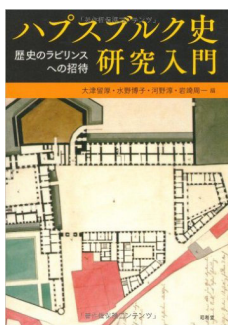
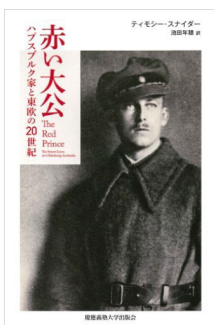
2017.2.16
vol.55

シネマ・ド・リぶらの コラム・ド・シネマ

映画
を
読む

2/16 『會議は踊る』 関連資料

| | | | |
|--|---------------|---------------|-----------|
| 『ドイツ・フランス共通歴史教科書 近現代史 ウィーン会議から 1945 年までのヨーロッパと世界』 ドイツギムナジウム第 11 ないし 12 学年 フランスリセ第 1 学年 (2 年生) | ペーター・ガイス/監修 | 明石書店 | 230 |
| 『赤い大公』 ハプスブルク家と東欧の 20 世紀 | ティモシー・スナイダー/著 | 慶應義塾大学出版会 | 289.3 |
| 『ハプスブルク史研究入門』 歴史のラビリンスへの招待 | 大津留 厚/編 | 昭和堂 | 288.49346 |
| 『魅惑のウィнна・オペレッタ』 | 寺崎 裕則/著 | 音楽之友社 | 766.2 |
| 『ウィーン オーストリア』 | | JTB パブリッシング | 293.46 |
| 『ウィーン・オーストリアを知るための 57 章』 | 広瀬 佳一/編著 | 明石書店 | 302.346 |
| 『ハプスブルク家史話』 | 江村 洋/著 | 東洋書林 | 288.49346 |
| 『映画でクラシック!』 | 西村 雄一郎/著 | 新潮社 | 778.04 |
| 『知ってるようで知らない映画音楽おもしろ雑学事典』 | 大日方 俊子/著 | ヤマハミュージックメディア | 778.04 |
| 『ヨーロッパ・映画の旅』 | 山村 謙一/著 | 弦書房 | 778.04 |
| 『古き良き時代の外国映画』 | 本吉 瑠璃夫/著 | 文芸社 | 778.2 |



コラム『會議は踊る』

「唯一度だけ」の夢幻劇 K.M.

今回上映の『會議は踊る』は、映画界にトーキーという新技術が導入されて間もない1931年、ドイツ映画界が製作した戦前ドイツのオペレッタ映画です。

監督にはエリック・シャレル（オペラの舞台演出を多年手がけてきた大ベテラン）、音楽にはヴェルナ・リヒャルト・ハイマン（ドイツ映画音楽の第一人者）、ヒロインにはリリアン・ハーヴェイ（可憐な歌姫）を揃え、脇役をコンラッド・ファイトらドイツ映画きっての名優たちで固めるという、大変豪華な布陣でした。

因みにこの作品の題名は、ナポレオン失脚後の1814年、ヨーロッパ諸国が一堂に会して、ナポレオン戦争後の新たな秩序体制を決めるために開かれた「ウィーン会議」が、各国の利害の衝突で議事が遅々として進まず、連夜の舞踏会ばかりが目立つありさまを皮肉ったものです。

シャレル監督はこの「ウィーン会議」を巡るオーストリア外相メッテルニヒとロシア皇帝アレクサンドル1世の主導権争いと、アレクサンドルとウィーンの町娘クリステルの束の間の恋物語を巧みにミックスして、歌と音楽と芝居が混然と溶け込んだ軽快なオペレッタ映画として仕上げました。トーキーが始まったばかりの時点で、よくぞこれだけの軽快な音楽劇が作れたものだと思わせる出来栄で、後の世に発展するミュージカル映画の出発点的作品の役割を果たすこととなります。

ところが今でこそこの作品は、戦前のドイツ映画を代表する記念碑的作品として位置づけられています。この作品がドイツで公開された1931年当時は、ヒトラー政権によって、多くの映画が退廃的な芸術として上映を禁止されていた時代でした。『會議は踊る』も1937年に反国家的映画とされ、この作品の関係者らも次々と国外へ流出していくという不幸な運命をたどることになります。

日本では、この作品はドイツ公開の3年後の1934年に公開されました。ウィーンの町娘クリステルを演じたリリアン・ハーヴェイの可憐な容姿と、劇中ロシア皇帝の宿舎に召されて馬車の人となった彼女が歌う主題歌「唯一度だけ」が多くの観客の心をとらえ、興行は大成功。評論家からもオペレッタの最高傑作と受け入れられ「1934年キネマ旬報外国映画ベストテン第2位」になるという幸運なスタートを切ります。

そして1940年以降、米英の映画が敵性文化として排斥されるなかで、この作品は同盟国の文化作品として許可されていた外国映画の象徴的存在として、太平洋戦争初



期の1942年頃まで何度も公開されることとなります。戦後も引き続きこの作品は頻繁に、再上映、テレビ放映が行われましたので、この作品の余韻は未だに、幅広い世代の心に残っているようです。その形跡をいくつか……。

- ① 1980年、NHKが特番のために大規模な映画音楽人気アンケート行ったところ、『ゴッドファーザー』『スターウォーズ』など直近の大ヒット作や名作を抑えて『會議は踊る』が1位に選出された。
- ② 2006年日本コロムビアから「オリジナル盤による戦前欧羅巴映画主題歌集」というCDが発売され、現在も市場に出ている。この中にはリリアン・ハーヴェイが歌う「唯一度だけ」が入っている。
- ③ 2013年の宮崎駿監督の長編アニメ映画『風立ちぬ』で「唯一度だけ」が挿入歌として使われている。

最後に、この作品を深読みしてみたい方には、優れた映画評「ただ一度だけ」(Das gibt's nur einmal)の夢幻"<ドイツ文学遊歩ホーム・ページ (<http://flaneur.web.fc2.com/011.html>)>をお勧めします。



1/19 「ジェニイの家」の感想

- ・今月も見ごたえのある映画をありがとうございました。
- ・楽しみの「ひとつ」になってきています。
- ・フランス映画の素晴らしさを改めて……良かったです。
- ・フランス語の音を久し振りに聞きました。
- ・とても良かった古き良きパリー。
- ・映像が古いので見づらかったです。
- ・名画中の名画。私が生まれた1937年の翌年の映画。何かの奇縁かと思えます。白、黒の良さが、どす黒いパリーの陰と陽が印象的。
- ・古い映画だが、おもしろかった！
- ・私の生まれた年代の映画でした。
- ・70才ですが、次はもう少し新しい映画もお願いします。とても面白かったです。女の人達が美しかったです。
- ・住む所が違うので分らないが、男は若い女がいいので、年増女が負けたということ？
- ・人間は誠実、娘の幸せが一番です でも？
- ・娘の幸せを願って彼女は身を引いたのか……何とも言えない終わり方でした。
- ・「親子丼」とか「おれおれ詐欺」とかイヤな言葉が浮かんだけど、ラストのジョニイの哀れさで、全て吹っ飛んだ感じ。子連れ再婚が多い昨今、異父異母きょうだいで、知らぬ間に魅かれ合わないように、家系図をしっかりとっておく必要あり……。今のEUのゴタゴタを登場人物は天国でどう思うかなー？
- ・「いく人 来る人」意味深です。
- ・「底にいる時は動くな」面白い人生観だ。
- ・人生の悲しみを表していると思いました。
- ・哀しい話でした。
- ・初めて観ました。
- ・悪い事をしてはいけなえ。
- ・楽しく、寂しい映画でした。また見に来ます。
- ・「哀愁」「レベッカ」「風と共に去りぬ」などもお願いします。
- ・今後の上映希望
- ①男と女 ②明日に向かって撃て ③ミリオンダラーベイビー ④ゴッドファーザー ⑤戦争と家族
- ・チャンバラの映画を……

次年度の上映についてのご案内 (上映日および上映作品は変更になる場合があります)

| | | | |
|------|-----------|-------------------|-------------------------------|
| 第57回 | 5月25日(木) | 『類猿人ターザン』 | ① 10:30 ~ ② 14:00 ~ |
| 第58回 | 6月22日(木) | 『たそがれの維納』 | ① 10:30 ~ ② 14:00 ~ ③ 18:30 ~ |
| 第59回 | 8月24日(木) | 『あん』(レンタル:字幕付き邦画) | ① 10:30 ~ ② 14:00 ~ ③ 18:30 ~ |
| 第60回 | 9月21日(木) | 『自転車泥棒』 | ① 10:30 ~ ② 14:00 ~ |
| 第61回 | 10月19日(木) | 『荒野の決闘』(レンタル) | ① 10:30 ~ ② 14:00 ~ |
| 第62回 | 12月21日(木) | 『みじかくも美しく燃え』 | ① 10:30 ~ ② 14:00 ~ |
| 第63回 | 1月18日(木) | 『バルカン超特急』(再上映) | ① 10:30 ~ ② 14:00 ~ |
| 第64回 | 2月15日(木) | 『黒いオルフェ』 | ① 10:30 ~ ② 14:00 ~ |

平日の昼間には参加できない方たちのために、来期は現行の「午前の部」「午後の部」に加えて、「夜間の部」を予定しました。6月と8月の上映の結果を踏まえ、その後の検討に入ります。

サロン・ド・シネマ

ホールホワイエにて

寄付金でお茶菓子を提供します。
映画の上映前にご利用ください。

6月～9月は、ホワイエが大変暑くなるため、サロンの開催をお休みさせていただいています。水分の補給等、各自でお願いいたします。

賛助サポーターとご寄付のご案内

賛助サポーターは、年度更新となります。総会のご案内と共に更新のご案内を同封いたしますので、よろしくお願いいたします。なお、ご寄付は随時受け付けておりますので、スタッフにお申し出ください。

りぶらサポータークラブ事務局：市民活動センター
tel：23-3114 ホームページ：<http://www.libra-sc.jp>

「シネマ・ド・リぶら」映画上映会（第 56 回）

バグダッド・カフェ



監督：パーシー・アドロン
主題歌：ジェヴェッタ・スティール
『コーリング・ユー』
出演：マリアンネ・ゼーゲブレヒト
ジャック・パランス
CCH・パウンダー
製作：1987年西ドイツ カラー
上映時間：91分



監督P・アドロンが女優M・ゼーゲブレヒトと組んで創った、砂漠に芽生えた女と女の友情の物語。アメリカ、ラスベガスとロサンゼルスをつなぐ道筋にあるモハヴェ砂漠のはずれ。そこにある、取り残された様な寂しげなモーター“バグダッド・カフェ”。ここをきりもりしているのは黒人女のブレンダだ。役に立たない夫、自分勝手な子供達、使用人、モーターに居着いた住人たちにまで彼女はいつも腹を立てていた。そんなある日、ひとりの太ったドイツ女がやって来た。彼女の名はジャスミン。大きなトランクを抱え、スーツを着込み、砂埃の道をハイヒールで歩いてきたこの奇妙な客に、ブレンダは不快な表情を隠そうともしなかった。だが、この彼女の登場が、やがてさびれたカフェを砂漠の中のオアシスに変えてゆく……。

★日 時 **4月20日（木）**

① **10:30 ~ 12:05** 開場：10:00

② **14:00 ~ 15:35** 開場：13:30

託児：500円
（各回5名まで）
申込みは、
1週間前までに。

★場 所 **りぶらホール**

★定 員 **各回280人**（入場無料・全席自由）

★主 催 **岡崎市立中央図書館
りぶらサポータークラブ**

★問合せ **TEL：23-3114 / 070-5333-1842
mail：lsc-office@libra-sc.jp**

